

第5章 計画の達成状況の評価

I 評価指標及び数値目標

本計画における計画目標に対する施策の進捗状況を明確にするため、目安となる評価指標と目標値を設定する。目標値は、現況値に対する目標として設定し、計画期間に合わせ、令和12(2030)年度とする。

【計画目標Ⅰ】 だれもが快適に移動できる 地域公共交通体系の実現	方向性① 公共交通空白地区の改善に向けた生活道路の整備や新たな公共交通の段階的な導入	評価指標1 公共交通空白地区の改善 公共交通空白地区の解消
	方向性② 総合的な交通情報案内サービスの提供	評価指標2 公共交通の利用促進 情報案内サービスの認知度向上 バスロケーションシステムの認知度： 17%⇒30%
	方向性③ 定時性、速達性、安全性を高める通行環境の整備	評価指標3 公共交通に対する満足度の向上 交通の安全性・利便性・マナー 向上の取組の満足度向上 約31%⇒約35%以上
	方向性④ シェアサイクル等を活用した細かい移動ツールの提供	評価指標4 路線バスの利用促進 路線バスの利用者数維持 利用者数：約900万人/年 ⇒約900万人/年
	方向性⑤ まちの拠点としての環境整備	評価指標5 市内循環バスの利用促進 市内循環バスの利用者数維持 利用者数：374,299人/年 ⇒397,325人/年
	方向性⑥ バス停まで歩いていくのが難しい高齢者等の移動手手段の確保	評価指標6 バスの利用環境の改善 バス停の上屋、ベンチの整備 バス停の整備数を5箇所以上
	方向性⑦ 広域連携による移動手手段の維持・確保	評価指標7 シェアサイクルの利用促進 シェアサイクルの貸出回数 貸出回数：約60万台/年 ⇒約72万台/年
【計画目標Ⅱ】 市民・行政・交通事業者等と一体となった 持続可能な地域公共交通の実現	方向性⑧ 路線バスの維持・確保	評価指標8 拠点地域のにぎわいの創出 歩行者交通量の増加 休日午後朝霞駅南口駅前通りを歩行 する人数：778人/時⇒870人/時
	方向性⑨ 市内循環バスの運行計画や弾力的な運行体制の見直し	
	方向性⑩ バス待ち環境の充実	
	方向性⑪ 運転手の確保に向けた対策の実施	
	方向性⑫ 公共交通の利用促進に向けた意識の醸成	
	方向性⑬ 地域が率先して地域公共交通を守り育てる意識の向上	
	方向性⑭ 地域公共交通の持続可能性と公共交通空白地区の改善が両立する評価基準等を定め PDCAサイクルによる運行管理の実施	

2 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、朝霞市地域公共交通協議会で毎年、進行管理を行い、計画の実現化を促進する。

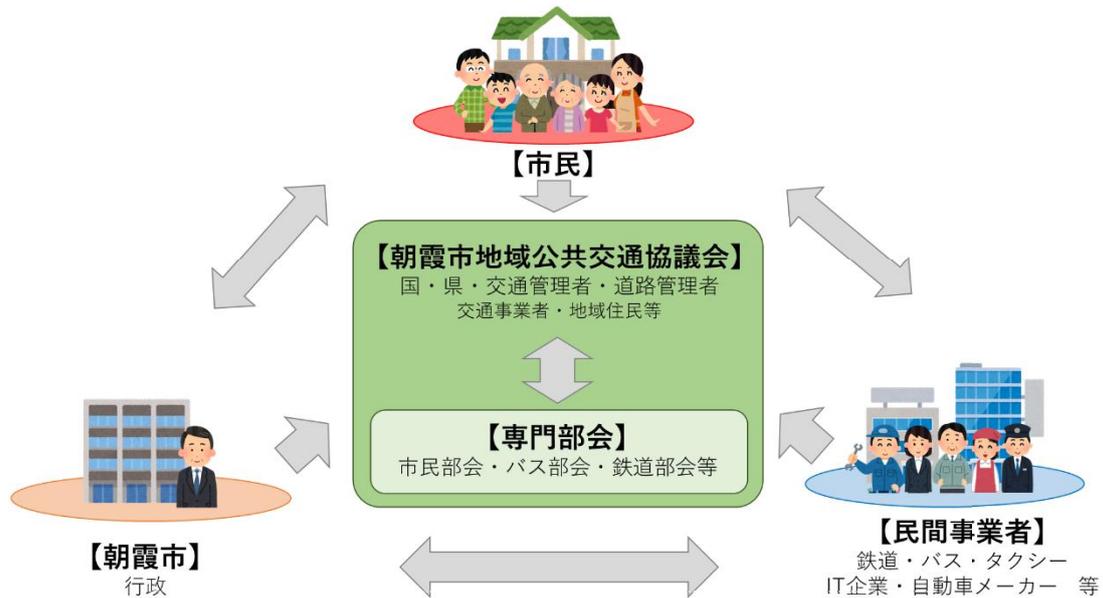


図 10 朝霞市地域公共交通計画の推進に向けた体系イメージ

3 計画進行の管理

本計画の進行にあたっては、定期的に計画期間における目標の達成状況を評価し、毎年朝霞市地域公共交通協議会に報告しつつ、必要に応じて見直し、改善するという PDCA サイクルに基づく評価・検証を行う。

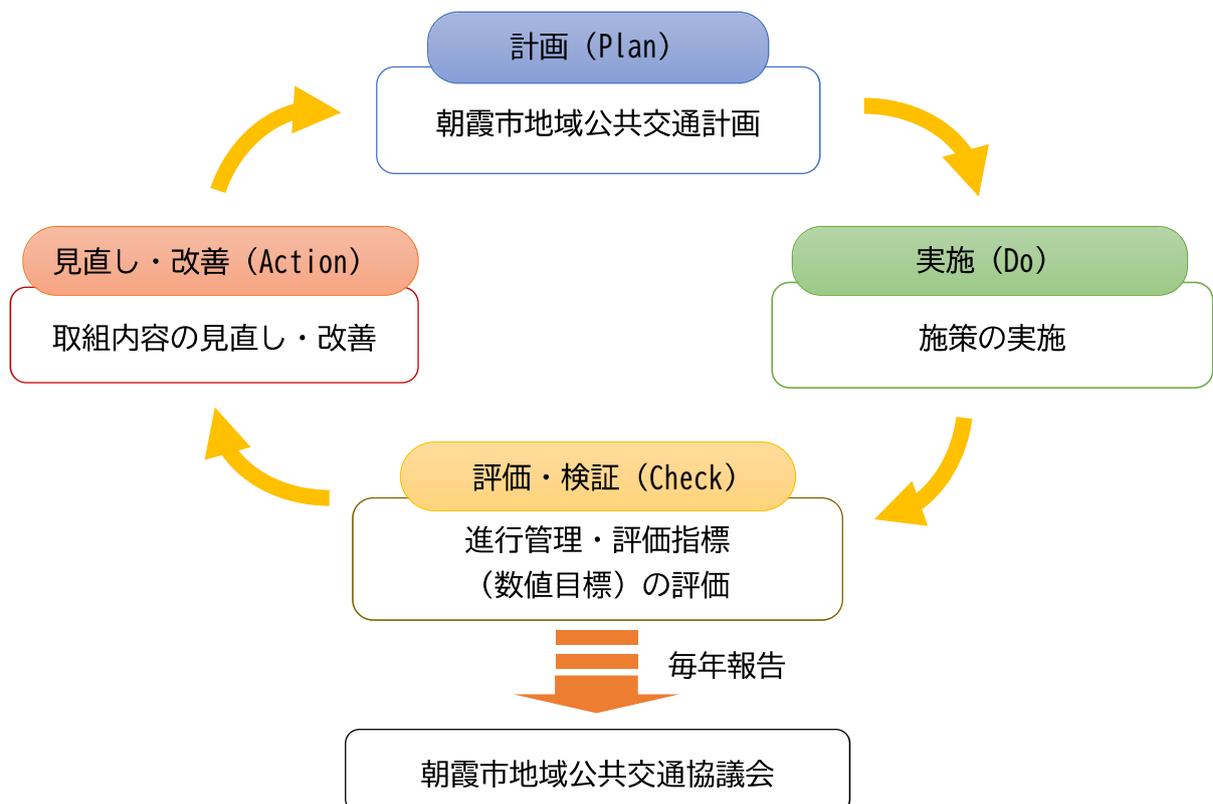


図 11 計画の進行管理イメージ